

肥料価格が上昇しています。

栽培計画を見直して、肥料コストの低減に取り組みませんか！

施肥の見直し

肥料の成分によっては、ほ場の地力や蓄積している成分により、肥料の投入量を減らすことができます。ほ場の状態を把握するため、土壌診断に取り組みましょう。

チェック□ ほ場の状態を把握するために土壌診断してみる。

チェック□ 過去に行った土壌診断結果を再確認してみる。

チェック□ 窒素やりん、加里など、ほ場に十分にあれば、施用量を減らしてみる。

チェック□ 必要な成分のみの単肥を利用してみる。

堆肥などの活用

輸入されている化学肥料の価格が上昇する一方、堆肥など国内にある肥料は、比較的、価格が安定しています。

チェック□ 堆肥（牛糞、豚糞、鶏糞）や魚かすなど有機物の利用を考えてみる。

チェック□ 近隣で堆肥が入手できるか調べてみる。

※堆肥マップで調べてみる。

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/chikusan/keiei/page2.html>

チェック□ 緑肥作物の栽培とすき込みを考えてみる。

施肥方法の検討

効率的な施肥法に変更することで、施肥量を減らすことができます。

チェック□ 局所施肥技術（側条施肥、畝立て同時施肥、苗箱全量施肥、ポット内施肥など）の導入を検討してみる。

チェック□ ペースト肥料など肥効調節型肥料への変更を検討してみる。